

業務の効率化と 仕事をシニアに任せて働き方改革 ～社会福祉法人合掌苑(町田市、介護福祉業)

人材確保に悩む介護業界ですが、町田市を中心に養護老人ホームや高齢者支援センターなど数多くの施設を運営する当法人では、働きやすさを目的に多様な取り組みを行い、スタッフの高い定着率を実現しています。

介護施設は夜勤がありますが、子育て中の女性には厳しいことから、当法人では、日勤と夜勤を完全に分離、子育て中の短時間正社員を日中勤務、夜勤は専従の有期社員とするなど、働き続けられる環境を整えました。さらに、業務の効率化や残業時間の削減にむけ、業務改善の取組なども日々行っています。

一方、シニアの力を活用する取組も行っています。当法人では、職員にできるだけ長く働いてもらうよう、定年制は廃止し、65歳までは給料は同じ、70歳まで手当は違いますが本俸は同じとしました。

現在、在宅ヘルパーを派遣するヘルパーステーションの非常勤職員の平均年齢は65歳を超えていますが、例えば、定年後にヘルパーとして入社した80代前半の職員は、週3日30分ずつという超短時間ですが、排泄介助などの業務を担当し、本人もいきいきと働いています。

また、介護の現場と言うと資格がないとできないと思われがちですが、見守りや調理など、生活の延長でできる仕事は無数にあります。こうした業務を切り出し、短時間でもシニアに携わってもらうことで、専門の職員にとっては大いに助けになります。また、入社後資格を取得する支援も行っており、働きたいだけ長く勤めてもらうことができます。

なお、このような多様な働き方を受け入れるには、チームワークを大切にする職場の風土づくりが重要です。職員との個人面談を密に行って法人の理念や想いを共有することで、職員が業務改善を自発的に行う環境を整えています。

(社福)合掌苑 森田マネージャー

マネージャーからの一言

いろいろな改善の取組を行ってきましたが、その中で最も大切なのは、相互理解です。未経験者が入ってきた際に、仕事ができないと厳しく捉えてしまうことがあります。が、いてくれることがお互いの助けになる、長い目でみてほしいと常日頃より現場で言っています。こうした風土が、人材の定着や働きやすさに繋がっていると感じています。